

目次

1. 相続制度・雑考	弁護士 福島 啓 氏 1
2. スムーズな会社の事業承継	弁護士 山 森 広 明 3
3. サーフィン中の事故と損害賠償	弁護士 河 合 慎 太 4
4. 入所の御挨拶	弁護士 岡 田 香 世 6
5. 9階に移転して	事務員 殿 島 多 美 7
6. カービングを楽しむ	事務員 西川原 由 美 7
7. 季節を感じながら	事務員 岸 本 直 美 8



相続制度・雑考

弁護士 福島 啓 氏

相続は誰でも一度は突き当たる悩ましい問題です。

我が国の相続制度は、共同相続であり、形式的な平等主義が貫かれているため、いくつもの問題を生じさせます。

ここであえて形式的平等主義と表現したのは、実質的には平等原則と矛盾するような事態が屡々発生するからです。

既に、相続を体験したことのある方は、相続制度が自分たちの思いとずれており、これは少しおかしいのではないかと感じたことがあるのではないのでしょうか。

相続が発生すると、それまで隠れていた問題が顕在化したり、新たな問題が発生します。

弁護士として多くかかわる問題に、例えば、

① 親の世話や介護に関する評価の問題

② 家業の跡継ぎの問題

③ 財産の細分化の問題

があります。もちろん他にも多くの問題がありますがとりあえず①～③について考えてみます。

1 Aは、長男で、若いときは両親と別居していましたが、両親が老年に達してからは同居しました。Aには家族があり、特に妻Bは、同居することによりいろいろ負担を強いられました。Aの父親の介護を要するようになってからは、事実上Bが介護をしなければならず、その負担は大変でした。母親も高齢で父親の介護をすることができなかったからです。

やがて父親が死亡し、相続が開始しました。Aには、弟妹がいました。母親と弟妹は、法

律で決められているとおりの遺産分割を要求しました。

ここで問題なのは、両親と同居をし、その食事や洗濯や掃除をし、さらに介護をしていたAの家族特に妻Bの無償の行為に対する評価が全くなされていないということです。

Aが特別寄与による寄与分の申立をしても認定の要件が厳しく裁判所はなかなか認めません。

Aやその家族が同居や介護により強いられた大きな負担は、結局Aの両親に対する扶養義務の履行に過ぎないとされ、何ら報われないうのが実際です。

かくしてAは妻Bに頭が上がらなくなります。

これでは子供が親の世話や介護をすることを厭になるのは当たり前で、親の側にとっても決して良い制度とはいえないでしょう。

2 家業の跡継ぎの問題も深刻です。

Aは、将来、弁護士になりたかったのですが、父親から家業の建設会社を継ぐようにいわれ、大学も建築科を卒業し、父親が経営していた小さな建設会社に就職し、以後長年に亘って父親を助けてきました。

その甲斐があつて会社は順調に事業を拡大してきましたが株式だけは父親がその大半を保有したままでした。

やがて父親が死亡し相続が開始しました。Aの姉妹は、遺産の中でもっとも価値があつた株式を取得したいといい、相続税の相談をしていた税理士は、相続税を軽くするため、姉妹にある程度株式を取得させ、更に母親に株式の半分を相続して貰うことを勧めました。

悩んだ後、Aは、相続税の納税額が莫大になることからやむを得ず税理士の方針に従いました。

ところが、遺産分割が終了した後、Aは、これまで給料を沢山取りすぎていたとか、Aの母親や姉妹に対する態度が悪かった等の理由で、会社の社長はおろか取締役の地位まで解任されてしまいました。今では、姉の夫

が社長をしています。

Aは、高齢期を迎える直前にいきなり無職になってしまい、悔し涙に暮れる日々となりました。

Aが長年に亘って努力してきたからこそ会社が発展し、株式の価値が上がり、そのため相続税が多額になってしまいました。税金を軽くするため不本意な遺産分割協議に応じたことがAの失敗の原因といえます。

しかし、そもそもこのような場合に、Aが会社の過半数の株式を取得できる制度にするべきであると思いませんか。

3 遺産の細分化も深刻な問題を発生させることがあります。

よく言われていることですが、農業が父親と息子Aで営まれていた場合に父親が死亡し、相続が開始したところ、都会に出ていた弟妹がAと同様の相続分を主張したため父親名義であつた農地が細分化してしまう等の問題です。いわゆる「たわけ」の問題です。

この問題は、特に都市化が進行中の都市郊外の農家に多いです。何故かという土地が値上がりしたからです。都会でサラリーマンをしていてもなかなか土地を取得して家を建てるできません。相続は高額となった土地を手にする千載一遇のチャンスですから弟妹も頑張ります。一方、農業を継いだAは、土地が減っては生活がやっていけなくなってしまふという大変な事態になってしまいます。結局、どちらも頑張ることになります。

ここに取り上げた三つの問題は、民法が昭和22年に改正される以前は問題になりませんでした。当時は家督相続の制度があつたため、家督を相続した者が相続財産を全て取得したからです。

現在の形式的平等分割の制度が問題を発生させています。しかし、相続制度を昔のように家を前提にした制度にすることは不可能です。国民が納得できる筈ありません。

ではどうしたら良いでしょうか。一つは、現在残っている社会的慣習を取り込むことができ

る制度にすることであり、もう一つは誰もが納得できる合理的な制度にすることです。

上記の例で言えば、

- ① 親の介護をした場合は、それを評価できること
- ② 会社を経営し発展させた者に対してはそのような評価をすること
- ③ 農業を営む者には農地が細分化しないようにすること

等の制度にすることです。

では具体的にはどうしたら良いでしょうか。方法はいろいろあると思います。

例えば、点数制にすることはどうでしょうか。遺産の全体を1000点とし、この点数を具体的な諸状況に応じて配点することができる制度にす

るのです。介護を長期間行った者には300点を与えとか、事業を長期間に亘って助け経営してきた場合は、会社の株式を取得できるように500点以上を与えとか、農地の細分化を防ぐために農業を営む者には農地を取得できるだけの多くの点を与える等のやり方をするのです。

各事情を適切に評価する方式をあらかじめ作っておけば予測が付きやすく法的安定性を害することもないと思われます。

現在の制度でも寄与分や遺留分あるいは遺言の制度である程度は修正補完できていますが、これらの制度では不十分です。やはり一度相続制度を根本的に見直す必要があるのではないのでしょうか。



スムーズな会社の事業承継

弁護士 山 森 広 明

1 戦後、日本経済の発展を支えた世代である団塊の世代（一般的には、1947年から1949年生まれのいわゆるベビーブームに生まれた世代を指します）が、一斉に退職を迎える時期となり巷では「2007年問題」と称され、退職者の持つ技術や知識等の継承の重要性が説かれてきました。

このような問題意識は、単に、会社（雇用主）と従業員との間の問題にとどまりません。

日本経済の最前線に立ってきた会社経営者も、近い将来、第一戦からの引退に直面し、その事業の継承を考えざるをえない時期になっているのです。

そこで、会社ことに中小企業においてどのような事業継承の形態があり、方法があるのかを考えてみます。

2 一般に事業承継という場合、その方法は、大まかに①親族への承継（親族内承継）、②従

業員等の非親族への承継（親族外承継）、③経営権等の譲渡（いわゆるM&A）の3つがあるといわれています。

①の方法は、会社のオーナー経営者が、その経営を自らの息子など親族に承継させるというもので、事業承継といった場合、もっとも最初に思いつくのがこの方法ではないのでしょうか。次に、②の方法は、親族の中に経営を承継させるに適当な能力をもち、かつ、その意欲がある者が存在しない場合に、親族ではない会社の経営の実態を知る従業員や会社役員に経営を承継させるといった方法です。最後に、③の方法は、会社事業を継続してやっていく人材を親族や会社関係者といった範囲を超えたところに求め、いわば事業を売却してしまう方法です。

3 いずれの方法においてもメリットとデメリットの両側面がありますが、ここでは、事業承継というイメージに最も適う①の親族内承継に

ついて、その方法の概略を説明いたします。

まず、候補者の選定を行います。候補者となるのは親族の内でも会社を経営する能力とその意欲がなくてはなりません。親族の情に任せ候補者を選定することは、会社の存続にとって必ずしもプラスにはなりません。候補者が、経営者の子供であり、他の兄弟もいる場合などには、後の紛争を避けるための配慮も必要です。

候補者を選定し、次に、株式会社の場合には、株式の当該候補者への譲渡、集中を行います。例えば、経営権を掌握するためには（議決権ある）株式の3分の2以上の確保が必要となりますが、現在の経営者が所有する株式を贈与等で譲渡し、これを実現します。この方法で必要な株式数が集まらない場合には、経営者以外が所有する株式も候補者に集中させるよう務めます。この場合には、会社が自らの株式を買い取る方法も、候補者の持ち株比率を上げるという意味で、有効です（平成13年の法改正に伴い、いわゆる「金庫株」が解禁されています）。

こうして候補者に株式を集中しても、経営者の個人名義の事業用資産がある場合には、経営者が亡くなった後にその所有権を巡る争いが生

じうる可能性があるので、これら事業用資産も譲渡等を行う必要があります。

最後に残る経営者が所有する株式や事業用資産は、経営者が亡くなったあとの候補者が承継できるよう遺言書を残すことも重要です。そしてこの場合には、遺留分への配慮も忘れてはなりません。相続により候補者以外の相続人が取得した株式については、会社法が、会社による株式の取得につき特則を設け、あるいは、会社からの売渡請求も認めています。経営者名義の事業用資産（特に不動産）が最後に残る場合には重要な問題を残すことになりかねません。

以上のように会社の事業承継を実施していくこととなりますが、前記説明からも明らかですが、様々な事柄や関係者への配慮が必要で、一足飛びで事業承継は実現できません。事前の綿密な交渉と計画が必要となってきます。ことに実効性のある節税が見込め、「経営承継円滑化法」（平成20年施行）に基づく金融支援や遺留分の特例などの有用な制度も存在しますから、専門家（弁護士や税理士等）にアドバイスを求めることも重要です。



サーフィン中の事故と損害賠償

弁護士 河合 慎 太

1 はじめに

私は趣味でサーフィンをやっています。サーフィンは海という大自然相手のスポーツであるため、沖に流されたり、高波に飲まれるなどの事故が度々発生しますが、最近では、サーファー人口の増加に伴い、サーファー同士の衝突事故が多く発生するようになりました。そこで、「サーフィン中の事故と損害賠償」について検討したいと思います。

2 サーファー同士の衝突事故類型（典型的な類型）

まず、サーファー同士の衝突事故として、よく起こる事故類型を3つ紹介します。

一つ目は、①沖に向かってパドルアウト（ゲッティングアウト）しているサーファーとライディング中のサーファーの衝突事故です。サーフィンでは、波が崩れるポイント（ブレイクポイント）付近で波待ちをしますが、このブレイクポイントに向かって沖へパドルしているサーファーと浜辺に向かって波に乗っているサーファーとが衝突する事故です（加害者＝ライディング中のサーファー、被害者＝パドルアウト中

のサーファー)。

二つ目は、②ドルフィンスルーをしたサーファーと波待ち中やライディング中のサーファーの衝突事故です。サーフィンでは、沖に向かってパドルアウトしているときに波が来たら、サーフボードごと海中に潜って波の下をくぐります(ドルフィンスルー)。このとき、サーフボードから手を離してしまい、サーフボードが浮力で波から勢いよく飛び出して、他のサーファーに衝突するという事故です(加害者=ドルフィンスルーをしたサーファー、被害者=ライディング中・波待ち中のサーファー)。

三つ目は、③ライディング中のサーファー同士の衝突事故です。サーフィンでは、波が崩れる方向に向かって進行します。そのため、両端から波が崩れてくる場合、両端から波に乗ったサーファーがお互いに向かい合う形でライディングすることがありますが、この両者がライディングしながら衝突するという事故です。

このようなサーフィン中の衝突事故では、サーフボードが当たって骨折したり(顔面の骨折が多いです)、サーフボードの先端が目に入って失明したり、サーフボード裏のフィン(船で言う舵)で皮膚や肉を切ってしまうという大怪我を負うことがあります。

3 損害賠償請求の根拠

サーファー同士の衝突事故が発生した場合、不法行為(民法709条)に基づき損害賠償請求することになります。交通事故と同様です。

①の類型では、ライディング中のサーファーには、パドルアウト中のサーファーの有無を十分に確認し、衝突しないように進行すべきないしはライディングを中止すべきであったのに、これを怠ったという過失が認められます。

②の類型では、ドルフィンスルーをしたサーファーには、ライディング中・波待ち中のサーファーにサーフボードが衝突しないようにサーフボードから手を離すべきではないのに、これを怠ったという過失が認められます。

③の類型では、双方のサーファーには、反対側からお互いに向かい合う形でライディングしてくるサーファーの有無を十分に確認し、衝突しないように進行すべきないしはライディングを中止すべきであったのに、これを怠ったという

過失が認められます。

残念ながらサーファー同士の衝突事故の判例は特に見あたりませんでした。ウインドサーフィンで疾走してきたウインドサーファーが、海上で波待ち中のサーファーに衝突し、左側上顎骨折、左頬部裂傷等の傷害を負わせたという事案(大阪地判H9.6.13)では、ウインドサーファーに「サーファーの有無を十分に確認し、サーファーが存在しない場所を進行すべきであったのにこれを怠った」という過失を認めており、基本的には上記過失が認められることになると考えられます。もっとも、上記の他にも、海の状態(波の大きさや潮の流れ等)や個々の能力(初心者等)などによっては、他の過失が根拠となることもあると考えられますし、サーフィンには波の優先権など独自のルール(慣習)が多く存在するので、これらルール(慣習)が過失の判断に影響することもあると考えられます。

4 請求できる損害

請求できる損害も交通事故の場合と同様です。そのため、治療費、入通院交通費、傷害慰謝料、休業損害、後遺障害慰謝料、後遺障害による逸失利益などの損害を請求することができます。前記ウインドサーファーとサーファーの衝突事故の事案でも同様の判断をしています。

5 過失相殺

過失相殺については中々難しい問題です。

前記ウインドサーファーとサーファーの衝突事故の事案では、波待ち中のサーファーは「より早期にウインドサーフィンの接近に気づき、危機を回避することも不可能ではなかったと考えられる」のにこれを怠った前方不注意の過失があったと認定して、15パーセントの過失相殺を認めています。この事案では、サーファーは衝突の2、3秒前にウインドサーフィンの接近に気付いたというもので、事前に遠方から接近してくるウインドサーフィンの存在に十分に気付くことが可能であったことが過失相殺の前提となっています。

しかし、日本の小さな波ではサーフィンのライディング時間はほとんどが数秒~10秒程度と短いため、①の類型や③の類型で加害者サーファーのライディング後に被害者サーファーがこ

れに気付いて危機を回避することが可能かという、時間的に十分ではないことが多いと考えられます（なお、②の類型では被害者サーファーに過失が認められることはほとんどないと考えられます）。

そのため、飽くまでケースバイケースだとは思いますが、前記判例の事案よりも被害者サーファーに認められる過失割合は小さくなるものと考えられます。

6 最後に

前述しましたが、今回執筆するにあたり、残念ながらサーファー同士の衝突事故に関する

判例は特に見あたりませんでした。これは、スキーやスノーボードのようなウィンタースポーツと異なり、これまで、サーフィンのようなマリンスポーツは敷居が高く、サーファー人口が少なかったため、サーファー同士の衝突事故の事案が極めて少なかったことが影響しています。しかし、近年はサーフィンをする著名人が増えたことも影響して、サーファー人口は飛躍的に増加しています（私がサーフィンを始めた9年前と比べても、サーファー人口の増加は著しいです）。そのため、今後の判例の集積に期待するところです。



入所の御挨拶

弁護士 岡田 香世

初めまして、岡田香世と申します。縁あって、当事務所に採用していただき、今年の1月から、弁護士としての第一歩を踏み出すこととなりました。

私は、生まれは名古屋ですが、幼少期は父の転勤について回って、博多（福岡県）、小倉（福岡県）、杉並区（東京都）、保谷市（東京都）などを転々とし、中学校から以降は愛知県で過ごしています。

名古屋大学法学部を卒業後、旧司法試験を受験していました。しかし、力不足でなかなか合格しないまま、結婚、出産を経て、娘を授かりました。その娘が1歳のときに、最後のチャンスと一大決心をし、夫の協力も得て同大学の法科大学院へ入学。2年間の勉強を経て、第3回新司法試験に合格し、新62期司法修習生として名古屋で修習を終え、現在に至ります。

仕事を初めて4カ月が経とうとしています。事務所では、毎日、新しく（私にとっては）とても難しい問題に次々に直面しては、頭を抱えて四苦八苦しながら取り組んでいます。法律上や裁判手続上の問題だけでなく、依頼者の方の

悩みを汲みとれているか、依頼者の方にとってどういう解決が一番良いのか等の点でも思い悩むことが多く、弁護士としてこの先どういう姿勢で事件に取り組んでいくのかを試されているような気がします。

幸いなことに、当事務所では、福島先生、山森先生、河合先生と、期の異なる複数の先生方に御指導いただくことができ、私にとっては修業の場として、大変恵まれた環境であると感じます。各先生方の事件の処理の仕方や弁護士としての考え方に間近で触れつつ、日々の仕事を通して私なりの弁護士像を確立していきたいと考えています。

毎日、日中は事務所で仕事に追われバタバタとしている私ですが、夕方になれば娘を保育園に迎えに行き、今度は家で夕御飯の準備等の家事に追われています。娘は、保育園歴5年目のベテラン保育園児（年長）ですが、まだまだ甘えん坊で家では私から離れません。最近「あやとり」に熱中していて、お風呂の中にまであやとりを持ち込んでくるので困っています。

家事や子育ては大変ですが、家での時間を娘

と遊んだりしてゆったり過ごすことで、日中の多忙感からしばし解放され、とても良い気分転換になっています。ストレスを翌日に持ち越さずに済むこの環境を逆手にとって、日中の仕事の能率と質を向上させていければと思っています

す。

甚だ未熟な私ではありますが、恵まれた環境を無駄にすることのないよう、精一杯仕事に取り組んでまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

9階に移転して

事務員 殿 島 多 美

昨年10月1日から錦総合法律事務所が「弁護士法人錦総合法律事務所」となり、事務所を6階から9階へ移転しました。

会社でも家でもそうですが、引越しというのは今は不必要でもそのうち必要になるかもしれないと思ったり、何となく捨てられなかった物が思い切って処分できる絶好の機会です。当事務所もかなりの備品や書類をこのときばかりにと処分しました。引越は大変でしたが、おかげで事務所内が随分すっきりしました。

書類の整理をしていた時、昭和の時代の提出書類や、カーボンで書面を写していた時代の原稿用紙などがファイルケースの奥に残っていました。今はパソコンで調べ物をし、コピー機で

同じ書面や資料を短時間で完成できることを考えると、昔はさぞ大変だったろうと思います。こうやって感慨にふけるのも引越の時によくありがちですね。

それにしてもこのすっきりした状態が今後も維持できるよう平素から整理整頓を心掛けなければいけないのですが、資料や記録が増えていくのはともかく、忙しさにかまけてまた元の木阿弥にならないか少し不安です。

9階に移転し半年が経ち、移転直後に比べると、事務所も落ち着きましたので、近くへお越しの際は是非お立ち寄り下さい。半年分の事務所の乱れには目を瞑って頂けると幸いです。

カービングを楽しむ

事務員 西川原 由 美

春はお稽古の季節です。何か始めるには最適な季節な気がしませんか？

私事で恐縮ですが、何か新しい趣味を…と思い「カービング」を習い始めました。

カービングと言ってもスキーマのカービングではありません。タイの伝統工芸で最近少しずつ日本でも広まってきていますが、結婚式場や高級料理店などで飾られているスイカやメロンにメッセージが入って、様々な形にくり抜かれている彫刻のアレです。

私は教室だけでなく自宅でも気軽に彫れ、友人などにプレゼントができてなおかつ、観賞用にコレクションしたかったので（自己満足）、石鹸でのカービングを選択しました。

柔らかい石鹸でないと彫るには危険なのですが、平面の石鹸を下へ下へと花びらの形に彫り込んでいき、立体的にお花を彫っていきます。

ナイフと石鹸さえ手に入れば、いつでもどこでも彫ることができて、とても楽しい趣味です。石鹸はまず、腐らなくて良いです（笑）。彫っていると良い香りがするので、アロマの効果もあります。色や香りの種類が豊富なので、作品に合わせて石鹸を選ぶのも楽しみの1つです。

果物・野菜でのカービングを選択している人は、スーパーで食材を見ると創作意欲がわいてくるそうです。先日、私の隣で彫っていた方のニンジンハートやレースの形に彫り込まれ、実に素晴らしい作品になっていました。（でもカレーに使ってしまったそうです…。）

ここだけの話、某有名中華料理店の料理人も同じ教室に通っているのだとか…。

カフェで素敵な音楽を聴きながら、時間を忘れて黙々と石鹸を彫っている人がいたら、きっ

と私です。(香りが飛ばないように一番端の席にいますので、出会っても大丈夫です。)

このカービング教室に初めて体験レッスンを受けに行ったとき、たまたま同じ時間に隣で彫っていたのが自分と同世代の、偶然にも他の法律事務所の事務員さんでしたので、すぐに親しくなり、月に一度は必ず「女子会」をするほどの仲になりました。カービング教室の先生も比較的年齢が近く、アジア好きなことで意気投合し(私の専攻は現代中国なのですが、先生はタイへ単身カービング修行に行き、タイをこよなく愛している方です。)、そのお陰で他の生徒さ

んとも親しくなり、これまでの学生時代の友人たちとはまた違った付き合い方のできる新しい友人を作ることができました。

気軽に通い始めたカービング教室で(しかも思わぬ形で)友まででき、趣味って素晴らしいなと思いました。まだまだ下手っぴなので、お茶がてら通いに行き、楽しく良い作品を作れたらいいなと思います。習い事は、頑張りすぎずに気軽に通うことが長続きするコツのような気がします。

皆さんはこの春に何か新しいことを始めましたか? または何か始める予定がありますか?

季節を感じながら

事務員 岸本直美

私は名古屋に住んでいながら、栄へ出てくる時にはもっぱらデパート界隈を歩く程度でした。この度ご縁があり事務所で働かせていただくことになり、早6ヶ月が経ちました。季節がちょうど初秋～春まで過ぎまして、ほぼ毎日自転車で外出するのですが緑の多い名古屋とはよく言ったもので、本当に桜通大津から裁判所まで緑の豊かさを実感しています。なかでも裁判所と弁護士会館の渡り廊下からの眺めるケヤキの木の雄大な姿は感動ものです。なかなか木を見上げることはあっても木と同じ様な高さから眺めるという贅沢は他ではない醍醐味かもしれません。すぐ近くの護国神社の桜並木も今年は風の強い日が多くて、華吹雪が舞いそこにいた人々は足を止めしばし見入っていました。秋の少し冷えた空気の中紅葉が始まり、冬の寒さの

中、椿の赤が際立ちそして、春の芽吹きとともに見事なだけ桜が咲き街路樹の足元にはパンジーにツツジが色とりどりと楽しませてくれています。

ビル群衆の中自然のもたらす癒しに幸せなひと時を感じながら、初夏に咲くアジサイを今から心待ちにしています。青々と茂る木々や咲く花に負けないように私自信も仕事に頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



【錦総合法律事務所案内】

〒460-0003

名古屋市中区錦三丁目7番9号

太陽生命名古屋第2ビル9階

弁護士法人 錦総合法律事務所

TEL 052-951-2431 FAX 052-951-2432

代表社員 弁護士 福島啓氏

社員 弁護士 山森広明

社員 弁護士 河合慎太

弁護士 岡田香世

- ・地下鉄桜通線久屋大通駅下車 西④番出口
- ・地下鉄東山線栄駅下車 ①番出口

